

重点項目	学習活動	
重点課題	自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、基礎学力の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣がない生徒が多いことから、学ぶ意欲を高め、学ぶ姿勢の改善に向けた働きかけが必要である。また、授業の指導においても工夫・改善を図り、よりわかりやすい授業を追求する必要がある。 ・中学校程度の基礎的な計算力を確実に身に付けさせるため、学校独自の基礎計算力テストを実施してきた。ただし、正答率があまり向上していないため、より効果的な対策が求められる。 ・各種検定や資格の取得に向けた補習を実施するなどして、生徒の資格取得への積極的な取り組みを促し、自ら学習する態度の育成を図っている。 ・生徒に対して全科目のシラバスを公表し、わかりやすい授業の実施に取り組んでいる。 	
達成目標	・互見授業と授業アンケートの実施	基礎計算力テストの実施と分析
	・授業見学およびアンケートを年1回以上	年2回実施、正答率70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導計画において、指導方法を工夫・改善する単元や学習項目を明確にしておく。 ・他の教員の授業を見学し、授業改善の参考とする。 ・生徒に対する授業アンケートを実施し、生徒自身に学習態度の振り返りをさせて学ぶ姿勢の改善を図るとともに、指導者自身の授業改善策の参考とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施してきた基礎計算力テストを継続的に実施する。(4月と年度末の2回) ・特に正答率が低い設問に注目し、全ての設問で正答率70%以上となるように関係教科で工夫して指導する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	安定した生活習慣の形成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、寝坊や怠惰による遅刻は203回（一人当たり年間 0.27回）で、前年度比で22%減となったが、複数回遅刻している生徒が47人、のべ125回で全体の60%を占めている。遅刻癖のついている生徒に対してより安定した生活習慣の形成を目指す必要がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、登下校時の交通事故は8件で、昨年度より8件の減となった。事故の内訳は、自転車と自動車による接触がほとんどで、自転車運転時の交通ルールの徹底や危険箇所を提示し、より安全な登下校を促すよう指導する必要がある。 	
達成目標	寝坊や怠惰により遅刻する生徒の減少	登下校時の交通事故の減少
	・1人当たり年間0.27回以下(のべ200回以下)	ハザードマップ制作完了(100%)
	・複数回遅刻する生徒の減少(30人以下)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回遅刻した生徒に対し、面接指導や奉仕活動などを通して、生活習慣の改善を図る。 ・「あいさつ運動」の継続実施。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の事故現場を地図上で示す交通事故ハザードマップを作り、危険箇所を生徒に知らせる。 ・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する。 ・警察者などから講師を招き、交通安全教室を実施し、意識の高揚を図る。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各方面の協力を得て実施した2学年の「インターンシップ」に関するアンケートの結果は、「進路を考える良い機会になった」と回答した生徒が約82%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、就職した生徒のうち専門性を生かせる企業に就職した生徒は約80%、進学した生徒のうち専門性を深めるために関連分野の大学・短大へ進学したものは80%、専門学校では42%であった。
達成目標	インターンシップの満足度(2学年)	専門性を生かせる進路の選択
	85%以上	就職85%以上、進学(4大、専門学校合わせて)70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の2学年で全員インターンシップ実施は、ほぼ定着してきている。今年度は、内容の充実を図りたい。学年と協力し、各学科教科の専門性を生かした実習先の確保に努め、生徒たちが、インターンシップを通して、より専門科目に興味を持ち将来の進路選択できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時には、ガイダンスやホームルーム等を利用、2年時にはインターンシップや実習等の授業で、3年時には課題研究等の授業で、本校の地域社会へ貢献や卒業生が工業の現場で活躍していることを紹介し、地元企業への関心を高めさせ進路先を決定できるようにする。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事の前にはアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが、事前準備や議会の活発化など、十分とはいえない現状にある。 ・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は95%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見される。 	
達成目標	主たる活動において満足と回答する生徒の割合	部活動継続率
	85%以上	85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事ごとに、アンケートの集約を行い、満足度をはかる。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。(昨年度、球技大会で目標の85%に達しなかったため、実施時期を1週間遅らせて準備の時間をとった。後期生徒会が立ち上がってから球技大会まで時間が少なかったため) ・教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	その他
重点課題	PTA役員会の活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動を煩雑で面倒なものと捉えている保護者が多く、クラス役員でも全く参加されない方もおられる。 ・PTA各行事への一般会員の参加が少ない。 ・生徒を通じてPTA行事の案内をしているが、保護者に渡らない場合がある。
達成目標	役員会の出席率 60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討する。 ・PTA通信やホームページなどを利用して活動を積極的に発信する。 ・一斉メールを活用した情報の共有を推進する。 ・役員相互の和気あいあいとした雰囲気醸成に努める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)